

令和2年度 福岡市立〔若宮小〕学校 学校評価実施状況(公表用)

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方針
<p>「笑顔でつながる若宮小学校」 【学校教育目標】 やさしさとたくましさを持ち、ともに学び、よりよい未来を創り出す若宮っ子の育成</p> <p>○明るく活気に満ちた学校 ・学ぶ喜びがある学校 ・環境が整備された美しい学校 ・信頼される学校</p> <p>○若宮プライドを身につけた子ども ・かしこい子(学ぶ意欲) ・やさしい子(豊かな心) ・つよい子(ねばり強いたくましさ)</p> <p>○主体的に実践する教師 ・明確な目標 ・高い役割意識と責任ある職務遂行 ・豊かな発想を生かした働きかけ</p>		<p>確かな学力を育成する。</p> <p>不登校傾向児童の減少を図るとともに、個々の規範意識の向上を図る。</p> <p>つながりを重視した、望ましい人間関係を構築する。</p>	<p>・主体的・対話的で深い学び」をテーマに、全職員が指導案を作成した授業研究に取り組み、わかる授業づくりをめざして授業改善に取り組む。 ・ICTを活用した授業を工夫し、児童の興味関心を高めながら、個の実態に合わせた目標で取り組むことができるようにする。</p> <p>・不登校傾向児童への個別対応を引き続き行うとともに、個を大切にできる学級経営ができるようにする。 ・「ヒヤリハットノート」の活用を続け、学校全体の危機管理意識の向上に努めるとともに、学校全体で児童を育てる意識を高める。</p> <p>・人間関係づくり学習の内容を更に見直し、1～4年生は10時間、5・6年生は若宮タイムを使って計画的、系統的に実施し、安心して過ごせる居心地の良い環境づくりをめざす。 ・延期となっている50周年行事を活用しながら、つながりを重視したカリキュラムを作成し、実行する。</p>
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
確かな学力の育成	「学びのユニバーサルデザイン」に基づき、学習規律の振り返りを行い、指導の重点化を図る。(取組指標)	<p>・「学びのユニバーサルデザイン」に基づいて全学級で指導できたが、引き続き個別の指導を要する。 ・振り返りカードの自己評価では89.6%(1月末)と目標を達成している。しかしコロナ禍において、不安定な児童もいたため、個別の対応に努めた。 ・前期は学習規律定着に重点をおいた授業研究、後期はテーマである主体的・対話的で深い学びに重点をおいた授業研究を全員実施し、課題提示や振り返り活動を工夫し、授業改善につなげることができた。 ・全学年の漢字力計算力テストでは、漢字力が平均86点、計算力が84点と達成目標とほぼ同程度であった。</p>	
	毎月の振り返りカードによる自己評価において、学習規律の項目で児童の肯定的評価85%を達成する。(成果指標)		
	誰もがわかる授業を展開するとともに、課題設定や振り返り活動を工夫した授業づくりに取り組む。(取組指標)		
「学びのユニバーサルデザイン」の共通実践と個に応じた指導の充実	国語と算数の全校テストは標準と比べて「同程度」以上、漢字力・計算力テストは全校平均85点以上となる。(成果指標)	<p>・「学びのユニバーサルデザイン」に基づいた生活規律の定着においては、全職員で取り組み、重点的事項も毎回指導資料を作成し、共通指導ができた。 ・振り返りアンケートの学校生活の項目の結果は全学年平均91.7%(1月末)と目標を上回っている。 ・本年度も、毎週水曜日に「ヒヤリハットノート」を記入し提出することで、職員の危機管理意識が高まっている。また、週1回児童終礼でも、個別の児童への配慮について共通理解し、全職員で児童を育てる意識が強まった。 ・不登校傾向児童数および全体的な遅刻児童は減少しているが、コロナによる影響が心配な状況である。</p>	
	「学びのユニバーサルデザイン」に基づいて、学校生活の振り返りを行い、指導の重点化を図る。(取組指標)		
	毎月の振り返りカードによる自己評価において、学校生活の項目で児童の肯定的評価85%を達成する。(成果指標)		
児童個々の自尊感情の育成と、望ましい人間関係づくりの構築	危機管理・未然防止のため、「ヒヤリハットノート」の取組を毎週行う。(取組指標)	<p>・アンケートや振り返りを計画的に行い、児童の様子を把握することができた。各学級の教育相談週間は、アンケートをもとに個別に話ができ、効果があった。職員の肯定的評価は約90%である。 ・SCやSSWと連携し、個別の対応を積極的に進めた。 ・人間関係づくり学習を取り入れながら、自己や他者を大切にする社会的スキルを高める取組を進めた。今後、系統性や実施時期を見直しながら、教育計画をたて、実践していく必要がある。 ・振り返りカードによる児童の肯定的評価は約90%(1月末)達成した。</p>	
	“ヒヤリ”を共有し、児童1人1人の状況把握に努め、不登校傾向児童の欠席率を前年度より減少させる。(成果指標)		
	人間関係づくりのスキルを系統的計画的に取り入れ、実生活で生かす取組を進める。(取組指標)		
児童個々の自尊感情の育成と、望ましい人間関係づくりの構築	毎月の振り返りカードによる自己評価において、言葉についての項目で児童の肯定的評価85%を達成する。(成果指標)	<p>・アンケートや振り返りを計画的に行い、児童の様子を把握することができた。各学級の教育相談週間は、アンケートをもとに個別に話ができ、効果があった。職員の肯定的評価は約90%である。 ・SCやSSWと連携し、個別の対応を積極的に進めた。 ・人間関係づくり学習を取り入れながら、自己や他者を大切にする社会的スキルを高める取組を進めた。今後、系統性や実施時期を見直しながら、教育計画をたて、実践していく必要がある。 ・振り返りカードによる児童の肯定的評価は約90%(1月末)達成した。</p>	
	Q-Uアンケートや毎月のアンケート、振り返りカード、教育相談週間を実施する。(取組指標)		
	アンケート結果を共有し、即対応、チームで取り組む。校内評価の人権教育に関する項目で肯定評価85%以上となる。(成果指標)		

学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)

○休校明けの7時間授業は、子どもたちにとって、心身ともに疲れた様子であったが、感染防止対策と学業の両方の観点から、学校として日々取り組んでいることがよくわかる。

○行事の自粛等、異例づくめの1年で、子どもたちもストレスが溜まっているのではないかと心配ではあるが、学校の先生方が子どもたちの心のケアをし、「安心・安全」に気を配っていることで、子ども達が元気に登校でき元気にあいさつをしていることに感謝している。

○コロナの影響で人間関係がどうなっていくのか心配がある。人間関係づくりの学習は継続して、達成度が上がるよう取り組んでほしい。

○図書館教育を充実させていくためにも、図書館の本の修理の必要性を感じている。

○オンライン授業等、子どもたちが今後活用するにあたり、年齢相応の「メディアリテラシー」を学ぶ時間をとる必要がある。学校に出てこれない子どものフォローもオンラインで可能になるとよい。

○保護者アンケート等では、一部保護者からの不満もあるようだが、学校としての教育方針や指導方針は事前にお知らせしていることであり、内容等によっては、PTAの役員会やお知らせ等を通じて対応すればよいと思われる。自転車のマナーや交通マナーに関する保護者意見に関しても、学校長・PTA・自治協議会等、校区全体の取組として、警察と連携していくのも一つの方法である。子どもたちの明るい未来のために、力を合わせていきたい。